

都道府県番号	1
都道府県名	北海道
(<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>)	

学校名及び規模

札幌市立山鼻南小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	77	73	68	75	71	71	0	435	

実践研究の概要

テーマ

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

テーマ設定の趣旨

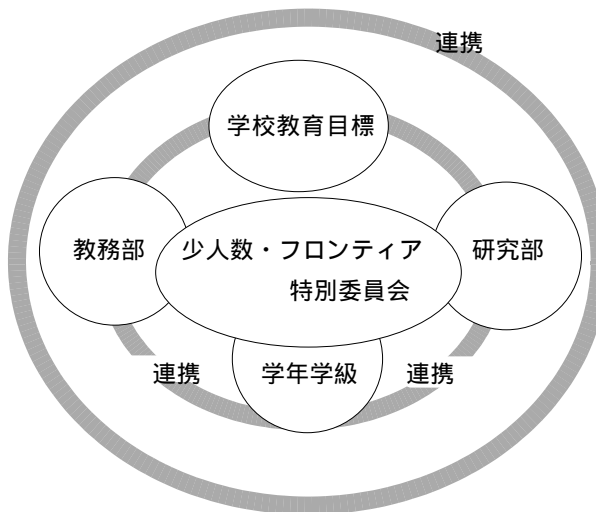
子供の学びに合わせた指導を行うことで学習への意欲を喚起し、学ぶ楽しさを実感させるとともに学力の向上を図ることができる。

実践研究の内容

() 研究体制の工夫

本校の教育理念のひとつとして、共同担任がある。学級、学年の枠にとらわれることなく、全教職員で子供たちの成長を見守り、伸ばしていくというものである。これは、開校以来一貫して取り組んできたものであり、日常の姿として本校教育の中に根付いている。校務各分掌や教職員間で常に連携を図りながら、子供たちを育てていくという意識は、本校教育の基盤としてしっかり機能している。

この基盤に立ち、本研究に取り組んでいることが、成果をより大きいものにしていくと考えている。



共同担任
全教職員による垣根のない教育活動

TT・少人数担当教諭2名、フロンティア担当教諭1名、教務主任1名の計4名は、常に各学年学級の指導に当たる体制を取る。

校長、教頭も含めた全教員が、個別に指導が必要な子供に日常的にかかわる。

学校職員も必要に応じて、指導の補助に当たる。

TT・少人数特別委員会を中核として、連携を図る。

() 実践研究の内容

取組の対象

- ・低学年(1.2年生)... TTを中心に個に応じたきめ細かな指導を目指す。-----
1年(国語・算数・生活), 2年(算数, 生活)
- ・中・高学年(3.4.5.6年生)... 習熟の違いによって, 子供がコースを選択する少人数指導 --- }
(コース選択制少人数指導・算数) ----- }
...興味・関心や課題に応じて子供がクラスを選択する少人数指導(総合) -----

取組の具体(例として上記 について)

・事前テストの実施

事前テスト(レディネステスト)は全学年で実施している。教師はもとより, 子供にとっても自分の状態を知ることにつながり, 子供が適切なコース選択をするための資料として有効である。

教師は, 子供一人一人の既習や習熟の状態をより正しく把握するために, 考えの道筋や間違いの傾向を分析的に見ることを重要視している。

・指導の工夫

選択コースの考え方

- ・取組の日常化を考え, 各コースの目標(知識理解面)を同じにする。
- ・コースはおおむね3つ準備し, 子供の選択に委ねる。
- ・子供の分かり方に沿った工夫ある指導となるように, コース毎に指導の手立てを違える。指導案にも手立ての違いを明記し, 各担当で事前の打ち合わせを十分に行う。手立てをコース別に工夫していくことは指導上の細かな配慮やより個に応じた指導を行っていく上で大変重要である。
- ・手立ての違いとは, 各コースの子供が本時の目標に到達するまでに, どのような問題意識をもって学習していくかをしっかり想定し, 適切な評価をしながら指導に当たれるように授業展開を工夫することである。
例えば, 「ゆっくりと進むことが必要な子供には, 既習事項の掘り起こしを十分に行い, 既習を十分に生かした活動となるようにすること。」「既習が定着している子供には, 新たな発想を広げたり, それを生かす授業展開を工夫する。」等である。

ただし, 指導する上で最も大切にしなければならないのは, 子供の問題解決を保証することである。算数で培う生きる力は見方や考え方の幅を広げていくことであり, このことが大切にされる授業を心掛けている。

コース選択制と子供たち

- ・本校が日常的に取り組んでいる共同担任の考え方は, 子供にも深く浸透しており, 少人数に分かれたり, 個別指導を受けたりすることに対して抵抗感はない。差別意識や劣等感といったものは, 学ぶ喜びを伴う学習には存在しない。
- ・子供が適切にコース選択できるように, 学習の状況や既習の状態を正確に知らせる。
- ・担任との連携も十分に行い, 学習中の子供の様子や習熟の状態を的確に評価できる体制を取る。
- ・「挑戦してみたい。」「確かめてみたい。」という意識を大切に, 学習途中でも自由にコースを移動できるようにする。

さらなる個別指導

- ・コース毎の指導を展開していく中で, 本人の申し出, あるいは, 担当教師の助言によって個別指導が必要だと考えられる子供がいる場合は, 校長・教頭を含めた教員による個別指導を行う。必要に応じて, 学校職員が指導の補助に入ることもある。
- ・担任には, 子供の様子や習熟の状態を細かく知らせる。担任は学級の中で認め合いながら子供を伸ばす姿勢をもつ。

() 成果と課題

成果

・学習意欲の向上

「子供の学びに合わせた指導を行ったことで、授業中の発言回数が増えた。」「より多くの考え方を生み出そうとするようになった。」「自分の考えをより分かりやすく説明しようとするようになった。」など、学習意欲にかかわる伸びが報告されている。これらは、コース毎に子供の学び方を想定し、適切な指導の手立てを工夫したことによる成果であり、子供たちが自らコースを選択し、納得するまで授業に取り組めたことが分かる。

・学ぶ楽しさの実感

学ぶ楽しさは、知識や理解が深まったとき、そして、問題を解決する中で自分の考えを表現したり見方や考え方が広がったりしたときに実感できる。今年度の取組では、上記の2つの内容を達成できるように常に指導の工夫を行うことで、子供たちに学ぶ楽しさを実感させることができた。

・学力の向上

単元末毎のテストでは、各コースとも基礎的基本的な内容を達成していると考えられる。前学年の内容を含めた個別指導が必要な子供も知識・理解面で着実な伸びをみせている。

さらに、自ら学んでいく力、言い換えれば、生きる力という真の学力面でも、前述の「学習意欲の向上」「学ぶ楽しさの実感」に表れているように大きな成果を残せたと考える。

課題

コース選択による算数の少人数指導、課題選択等による生活科・総合的な学習の時間などの少人数の指導がさらに成果を上げていくには、子供を適切に把握できる教師の資質や能力の向上が大切である。

また、算数の少人数指導については、以下の点についてさらに研究を深めていく必要がある。

- ・カリキュラムの整備...配当時間、指導目標、コース別の指導の手立て
- ・評価規準の整備
- ・子供が選択するコースの再検討
- ・時間をかけて指導する領域、子供に定着しにくい領域の洗い出し

() 成果の普及方策

- ・第4回教育実践発表会にて算数の少人数指導(3.6年)を公開
- ・本校少人数指導の視察(江差町立水堀小学校)、本校職員による研修会(古平町立古平小学校)
- ・札幌地区学力向上協議会開催、北海道地区学力向上協議会開催 予定
- ・札幌地区学力向上フロンティアスクールによる研究集録発行 予定